

二月の上旬のこと、我が家  
の背戸にはまだ固くなつた雪  
が残つて いましたが、用事が  
あつて出かけたある場所で  
「踏の臺」を見つけました。へ  
春へを意識しました。立春を過ぎ  
て厳しい朝を迎えるまぶし  
い陽さしを感じる日々が続く  
と、「卒業」の言葉をいつも思  
います。新しい学校生活には、  
春夏秋冬、四季折々の「季節  
感」を色、香り、温度等、実  
感させたいと考えます。市役  
所五階の教育長室には毎日季  
節折々の花が飾られています。  
一見殺伐とした環境の中にも、  
入り口から見える壁には絵画、

いよいよ、三月も半ば「卒業」という大きな節目の時期となります。平成二十七年度の振り返りの上に新しい年度を迎えます。目の前の子どもたちを見つめ、様々な角度から教育の実態、在り方を丁寧に見据え、次年度構想を構築されているものと推測します。一年間の時間の速さをいつも思います。

この時期にまた取り上げる

心願ある「北駿の教育」の推進  
教育長 勝又 將雄

書のすつきりした芸術品とともに、清々しい雰囲気の切り花が「おもてなし」のさわやかな香りと色と季節を漂わせてくれています。

北駿の教育界に「激震が走った」と市民の皆さんはもちろのこと、教育界の大先輩方に叱咤激励をいただいたことも事実です。銘記しなくてはならない現実でした。学校訪問時に「切ない」という言葉でいくつか思いと言葉を伝えました。あつてはならないことを発生させてはなりません。たくさんの学校、たくさんの教職員が素晴らしい取り組みを重ね、外部的にも高い評価

生徒指導同様に「崩れるのはあつという間」で、立て直すには「莫大な時間」を費やします。締めくくりの時間は次への助走期間でもあります。「卒業」の言葉に「出発」の意味が含まれるように、御殿場市の「新しい教育」を目指して、今から例年以上の気迫をもつて締めくくりと出発の充実の時間を共有したいと考えます。

なくてはなりません。  
一年間、温かな指導をあ  
りがとうございました。心よ  
り感謝いたします。

徒指導がらみの保護者対応で少なくない時間を費やされていましたが、「若い先生方にはデリケートさだけでなくバリケードを築けるたぐしさを持つてほしいもの」と、苦言とともに息ともつかない言葉も発せられました。「向上的変容」を意図する教育の成果を

# 学校教育課長　鳥越 雅幸

学校教育課だより  
「かけはし」  
【第11号】  
平成28年  
3月14日発行  
御殿場市教育委員会



(各種表彰)をいただきました。一面トップ記事になるようなたくさんの明るい記事が、社会面に発表されるようなことですべて否定されているような現実に、悲しさと情けなさで胸が張り裂けそうな思いに駆られました。

個の学習だけでなく集団生活全般で振り返る時期となつて います。『有終の美』の意味す るところを子どもたちとともに に味わつてほしいと願います。

私は「心願」を持つた教師 でありたいと常々伝えてきま した。志を持つて教壇に立つ ことを熱く臨んだ時代を思 い出してほしいと思います。

役所に戻る途中、六年生だと思いますが、在校生からもられたと思われる画用紙に書かれた感謝の言葉やプレゼントを見て、友達とこやかに談笑しながら下校する子どもたちの姿を見かけました。

この時期に各中小学校では、学校の顔として、一年間学校を牽引してきた最上級生に、感謝の気持ちと卒業後の更なる活躍を願い、「六（三）年生を送る会」が開かれています。前任校では、この会を「三年生に贈る会」という行事名で実施していました。最初の違いへのこだわりを聞き、この行事に対する思いを知りました。勝手な解釈ですが、「三年生を送る会」の「を」には、三年生全体を学年という大きなくくりとして、送るというイメージがありますが、「三年生に贈る会」の「に」には、三年生一人一人にという対象を意識しているイメージがあります。前任校では、この「に」という言葉にこだわり、三年生一人一人に感謝の気持ちが届くように実施していました。それまで、「〇〇

「を送る会」を普通に使ってい  
た私にとって、行事名にも思  
いを込め、こだわっているこ  
とに、特別活動の意義と大切  
さを再認識する機会になりました。

今年も在校生がプランを練  
り、在校生と職員が一体とな  
って、感謝の気持ちが十分に  
込められた三年生に贈る会  
が行われたこと思います。

卒業・進級を控え、一年を  
振り返る機会に、感謝の気持  
ちを伝え合うことが人として  
の成長につながります。各学  
校では「学び合い」「喜び合い」「失敗し合い」等々、今年度  
も多くの「○○合い」があつ  
たと思います。この「合う」  
ことが多かつたほど、感動も  
大きいものがあると思います。  
また、「合つ」経験こそが、他  
ではできない学校で学ぶ意義  
であり価値です。

朝日新聞の「天声人語」に、  
「春風の中に坐す」という言  
葉が載っていました。中国の  
故事に由来し、春のそよ風が  
万物を成長させるように、よ  
き師のもとで育まれる幸せを  
言うそうです。

今年も多くの学校、学級で  
よき師のもとで学んだ幸せを

研修の充実に向けて



多くの児童生徒が感じ、各学校に春の優しい風が吹くことを願っています。

「でもたちが生き生きと授業に向かう姿と先生方が子どもたちに寄り添い、分かる授業の工夫をされている様子に感心しました。

御殿場南小の先生」と話をす  
る機会があつた際、「学校の研  
修も大変ですね」と声を掛け  
させていただきいたところ、「放  
課後、授業のことで話し合  
時間を取ることはなかなか難  
しいけれど、先生方と授業に  
ついてあれこれ言い合うことが  
が楽しいんです。」と、その先  
生がおっしゃいました。

幼稚園の公開保育では、子  
どもたちを活動にのめり込ま  
せるための手立てが工夫され  
保育の準備に多くの知恵が絞  
られている様子がありました。

子どもたちの授業や活動を  
一生懸命考え、一時間の授業  
を大事に考えられる先生方の  
姿勢が、子どもたちの笑顔を  
つくつているのだとつくづく  
思いました。

教師としての技量を高める  
ために、ベテランの先生方の  
指導技術を見て学ぶことを大  
切にしたいと思います。先輩  
の先生方の授業に対する思い  
や心構え、指導に対する考え方  
などどうかがうと、自分は

思いました。また、研修は、その年度で完結するのではなく、次年度に生かし、さらに発展させるといった課題があると思いました。個人でも、また学校としても、次年度へのつながりを大事にしていただきたいと思います。

今年度、印象に残った研修会の一つに、御殿場市教育フオーラムの学校安全部会・分科会での講話があります。講師として、東日本大震災で被災された石巻市立稻井小学校の橋本校長先生をお招きしました。先生は「自身も被災された中、学校の再建のため、子どもたちの笑顔を取り戻すために奔走された様子」を語られ、胸がつまる思いで聞いていました。講話の中で流れた映像に、再建された学校で、校歌を歌う子どもたちの姿を見ました。子どもたちにとって、学校は心の故郷であることを改めて感じました。学校を通して人と人はつながり、生き

る勇気を得るのだとも思いました。学校が子どもたちにとって何よりも楽しい場所であり、心躍る、頑張れる場所であつてほしいと思います。

**【福島英子】**



点は、常に子ども一人一人の学びに目が向けられている点です。誰もが分かるという視点から授業のユニバーサルデザイン化を図つたり、子どもたちの様々な表れに対応できる支援や援助の方法を工夫したりするなど、目の前にいる子どもたち一人一人の姿を思い浮かべながら、授業構想や保育構想がなされ、それが見事に実践されていました。

今年度の学力向上委員会による学校訪問では、全国学力・学習状況調査の市の分析結果と授業アイデア例の提案今後の授業改善の視点等をお伝えしました。その際、次年中で、各学校（園）の研修テーマを意識した積極的な取組が見受けられたと同時に子どもたちが真剣に課題解決に取り組む姿や友達と楽しそうに探究活動（遊び）に取り組む姿が見られました。また、教室に入ると、子ども同士、先生と子どもたちとの自然な関わり合いが見られ、温かい雰囲気の中で子どもたちが一生懸命学んでいる様子が数多く見られました。

御殿場市の授業づくり、保育活動づくりに共通しているところが、授業を参考させていただきました。

今後も、子どもたち一人一人が主体的に考える中で、付けてい力が身に付くような授業づくり、保育活動づくりを大切にしてほしいと思います。

**【小越隆則】**



「子どもの名前を呼んでから挨拶をしたり、やりとりをしたりしましょう。」

これは、一点突破の教職員努力目標として、市内教職員が同一歩調で子どもを大切にしていくという心構えを表しています。子どもたちが、授業や保育活動を通して、付けたい力を身に付けるためには、子どもたちの「知りたい」、「分かりたい」という、思いを高めることが必要です。また、この段階で正確に見定め、適切な指導をすることも大切になります。

同時に、欠席者については、「病気やけがなどの欠席」なかなかわりが大切になります。

**【石田善正】**

今年度の特別支援教育は、大きな動きのある一年になりました。御殿場市として、特別支援学級（自・情）の新設に向けて準備を進め、府内会議等での承認を得てきました。また、新設に伴う通学区域の検討をし、一部改正をしました。保護者には説明会を行い、開設の方向性について理解を得てきました。御殿場南小学校、西中学校には、書類準備や教室準備等でご負担をかけましたが、二月に県教委より正式に開設の許可をいただき

ます。各学校で、廊下や階段でさわやかな挨拶を交わしてくれる子どもや、下校時の昇降口での先生の挨拶に対して、先生方の強さと優しさを兼ね備えた温かい指導や関わりが、具体的な子どもたちの姿となって表れていました。御殿場市は来年度も、問題対応型の生徒指導から健全育成型の生徒指導への転換と継続を目指します。今後ともよろしくお願いします。

説明が見やすい位置に移れるように場所を譲っている場面に出会いました。

早いもので年度末を迎えて、先生方の強さと優しさを兼ね備えた温かい指導や関わりが、具体的な子どもたちの姿となって表れていました。御殿場市は来年度も、問題対応型の生徒指導から健全育成型の生徒指導への転換と継続を目指します。今後ともよろしくお願いします。

【石田善正】

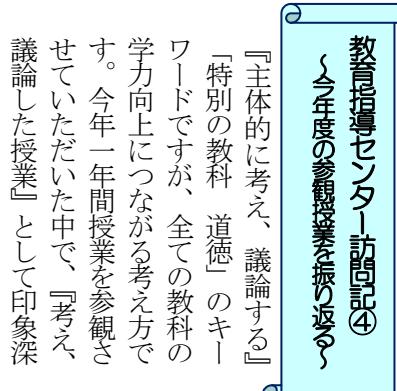


今年度の特別支援教育は、大きな動きのある一年になりました。御殿場市として、特別支援学級（自・情）の新設に向けて準備を進め、府内会議等での承認を得てきました。また、新設に伴う通学区域の検討をし、一部改正をしました。保護者には説明会を行いました。御殿場南小学校、西中学校には、書類準備や教室準備等でご負担をかけましたが、二月に県教委より正式に開設の許可をいただき

ました。これにより、平成二十八年度の特別支援学級は二十七学級となります。在籍する児童生徒数は百二十四人と大幅に増加します。今後の課題は、特別支援学級を担当する教員や特別支援教育コーディネーターの専門性の向上です。

就学支援については、年々審議数が増加している状況で、延べにすると五百件を優に超えています。市教委も園や学校も、心配な子、気になる子の保護者との就学相談について、早期に対応していくことが大切だと考えます。次年度のことを考えた場合、次年度に入ってからではなく、今年度の内から就学支援を始めておくことが必要です。園や学校だけで対応できるケースと対応できないケースがあるので、医療や臨床心理士、保健師、専門調査員、市教委担当等、専門的な立場の方々と連携して、就学相談を進めていきましょう。

平成二十八年四月より、「障害者差別解消法」が施行されます。この法律の大きなポイントは、「不当な差別の取扱いの禁止」「合理的配慮の不提供」



の禁止」が法的に義務付けられることです。「合理的配慮」とは、個に対応するものです。一人一人の障害の状態や教育ニーズ等に応じて決定することになるので、当事者(子どもや保護者)の意思を大切にすることが必要です。今までの教育相談と同様に「意思表明」から「決定」に至るまで丁寧に支援しながら、合意形成に向けた建設的な話し合い、調整が必要となります。また、「意思表明」の内容が、理にかなつた変更、調整になつてゐるか、という判断も必要になります。ケースによつては、園や学校だけでは判断できな場合のあると思うので、福祉行政や教育行政と連携しながら対応していきましょう。

【長澤広志】

いものを紹介します。

【二】朝日小学校一年一組(土屋典子先生)の道徳の授業資料「コンタのくつ」で、友達のポンキチに「くつをかくそう」と言われたクマオの気持ちについて考えた。先生は、ポンキチに「やめよう。」と言えるが、言えないかを論点にし、「心のものさし」を示して自分の考えを明確にさせた。

しかし、大勢に怯まずB子が反論し、C子が援護した。しばらくA子とB子の議論が続いたが、二人の意見にはきちんととした根拠が必ず付いていました。先生は、議論を聞きながら、キーとなる言葉や解釈をヒントとして示した。二人の議論が煮詰まってきた時点では、どちらの意見に賛同するか手させたところ、見事に逆転し、B子の意見に全員が賛同した。二人の議論のレベルも高かつたが、それを聞きながら自分の考えを再構築していった大多数の子どもたちの姿勢にも感動した。そして、子どもたちが忌憚なく自分の意見を出せる土壤を作った先生の指導も見事である。

小学校一年生でここまで本質に迫る議論ができる」とに新鮮な衝撃があり、日頃の耕しの大切さを思った。

【二】御殿場小学校四年二組(牧野直樹先生)の国語の授業。教材「落ち葉ではなく落ら枝だ」で、筆者の問い合わせを見つける課題に取り組んだ。子どもたちは、「どういうことはつまり」「もし」の接続詞か

ら始まる三つの文を候補に挙げ、それを一つに絞るための意見交換に入った。

まず、この学級のエースのA子が見事なまでの論理を組み立てて意見を述べた。その意見に、B子とC子の二名を除く子どもたちが賛同した。しかし、大勢に怯まずB子が反論し、C子が援護した。しばらくA子とB子の議論が続いたが、二人の意見にはきちんととした根拠が必ず付いていました。先生は、議論を聞きながら、キーとなる言葉や解釈をヒントとして示した。二人の議論が煮詰まってきた時点では、「元々イスラエルの土地ですよ。」「国連の仲裁に従うべきだよ。」等々、激論が交わされた。最後に先生から「パレスチナ問題を解決するために世界・日本ができる」とは?」という課題が提示された。こでもいろいろな考えが出されたが、班の議論で最も熱くなつて、いた生徒が「子どもたちを教育することだ。平和に生きることの素晴らしさを教育することだ。」という意見を述べて、それがこの授業のまとめとなつた。

心に食い込む授業だった。生徒たちは、この授業のこと写真を見せ、「彼の夢は何だと議論した授業」として印象深

【湯山伸彦】

思いますか。」と授業に入れる色々と挙げられたが正解は出ず、先生が「彼の夢は自爆でした。その夢は、十九歳で叶いました。」と告げる。次に、巨大な戦車の前に立ち、石を投げつけている幼い少年の映像を見せる。生徒たちは、衝撃を受けながら授業に引き込まれていった。その後、パレスチナ対立の歴史や国連の介入等の概要を学習した後、「イスラエルとパレスチナのどちらを支持するか。」を議論した。「元々イスラエルの土地ですよ。」「国連の仲裁に従うべきだよ。」等々、激論が交わされた。最後に先生から「パレスチナ問題を解決するために世界・日本ができる」とは?」という課題が提示された。こでもいろいろな考えが出されたが、班の議論で最も熱くなつて、いた生徒が「子どもたちを教育することだ。平和に生きることの素晴らしさを教育することだ。」という意見を述べて、それがこの授業のまとめとなつた。